

南の風 523

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

522号の続きです。「話を聞く能力」についてです。

だれかに何かを伝えたいと思っている人がいるとき、それを引き出すのは聞く人の能力でありスキルです。これを段階に分けると以下ようになります。

- ①無視・・・話しても無視するような人とは二度と話をしたいと思わないでしょう
- ②聞いたふり・・・聞いているようなそぶりを見せているだけなのは相手にわかります
- ③部分的な傾聴・・・自分にとって都合の良い部分だけ聞いています
- ④積極的傾聴・・・よく話を聞いて、理解しようとしています
- ⑤感情移入して聞く・・・相手の言うことを理解して相手の気持ちになっているため、相手ももっと話したくなります

①から⑤に進むほど、話を聞くレベルが上がります。話を聞くレベルが上がれば、相手はもっと話をしたいと思うようになります。その結果、聞き手は相手を理解することが可能になるのです。

相手を理解することが、自分を理解してもらうための鍵です。すなわち、相手の話を聞くレベルが、相乗効果的な関係のベースを決めるのです。

話を聞く能力は磨くことができます。スキルのように練習によって身につけることが可能です。

まずは相手の言っていることを繰り返すだけでも構いません。人は、自分が話したことを相手がおうむ返ししてくれるだけで聞いてもらえているという感触になります。そのおうむ返しがだんだん感情移入したものになると、自分の言葉での切り返しになり、感情を反映したものになっていきます。そうなると、話し手はもっともこの人に自分の話を聞いてもらいたいと思うのです。

そうやって話を聞く能力を磨いていくことで、本質的なリーダーシップが身につくのです。

続いて、鈴木氏が考える「相乗効果を発揮するチームへ」についてです

チームスポーツにおける勝利は技術や戦術だけで決まるものではありません。チームは組織です。組織の強さが求められており、技術や戦術はその一部です。チームが相乗効果的に影響しあうことで、技術や戦術のレベルはさらに引き上げられるのです。

選手1人+選手1人が2人の力ではなく、3人分、4人分になるようなイメージです。なぜならチームに1人だけしか影響力のある人がいなければ影響力は1です。しかし複数の選手が影響力を持てば周囲を巻き込むパワーが違ってきます。2人いれば4になり、さらに次には8となるのです。

影響しあえない5人なら「5」の力を発揮するだけです。ところが影響力のある5人が揃えば、互いに刺激し、影響しあって「10」や「20」になるかもしれません。そういうチームのほうが強いのは言うまでもありません。

渡り鳥はV字型に隊列を組んで飛びます。後ろにいる鳥は先頭の鳥が起こした気流を利用しながら飛ぶから楽だと言われています。先頭に立つリーダーを交代しながら飛ぶことで、一羽で飛んでいくよりもはるかに楽に数百キロの距離を飛ぶことができるのです。次号に続けます